情報デザイン科**学科だより**
Information Design Department

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」令和５年度第８号 通巻２１５号

IDDNewsletter 11

2023
November

特集

科目「インテリアエレメント」から

　専攻科の専門科目の一つに「インテリアエレメント」があります。1，2 年生が合同で行う「インテリアエレメント」では、家具や小物などを制作する木材加工の演習を中心に行っています。今回は「インテリアエレメント」の授業の様子や内容について御紹介いたします。

特集

科目「インテリアエレメント」から

専攻科の専門科目の一つに「インテリアエレメント」があります。1, 2 年生が合同で行う「インテリアエレメント」では、家具や小物などを制作する木材加工の演習を中心に行っています。今回は「インテリアエレメント」の授業の様子や内容について御紹介いたします。

インテリアエレメントとは、インテリアを構成する要素のことです。その要素は、家具や家電、照明器具、カーテンなどに限られたものだけではなく、天井や壁、木などの内装材も含まれた、比較的広い概念であると言えます。

科目「インテリアエレメント」では、そのインテリアの構成要素である家具や小物などを、主に木材を材料に用いて制作する演習を行っています。

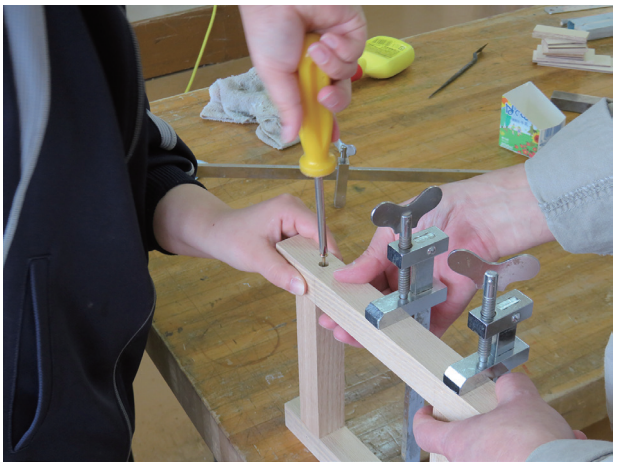
1 年生は、円柱や三角錐などの展開図を作成し、それらを組み立てることや透視図法を用いてのスケッチなどの基礎・基本を学習してから木材での制作に入ります。

今年度､最初の課題は「文書箱の制作」でした。文書箱は、A4 サイズの用紙が入るほどの大きさの箱で、５枚の部材から成っています。最初に、定規を使って部材の加工に必要な線を引き、釘を打つ位置を決めます。特にサシガネというＬ字型の定規を使うと効率的な計測ができます。何を作るにしても、正確に寸法を測ることがよい作品を作るための基本になります。

それから、文書箱では、部材と部材の接合部分に釘を使います。釘を打つにはゲンノウという道具を使います。ゲンノウは釘を打つ頭部の一方が平らな面で、もう一方が丸い面になっていて、平らな面で釘を打ち付け、丸い面で木材を傷めないように仕上げるという使い方をします。

正しく道具を使うことは、丁寧に作品を完成させることにつながります。また、安全に制作を進めていくためにも正しく道具を使うことは必要です。他にもハタガネや電気ドリルなどの道具や工具の使い方を覚えながら部材を組み立てていきます。

このシンプルな文書箱の制作が基本になって、次の課題「ブックスタンドの制作」に進みます。



２年生は、「ミニスツールの制作」から始まりました。ミニスツールは、４本の脚部の部材とその他８枚の部材から成る小さな腰掛です。完成したミニスツールの４本の脚が、しっかりと安定して床に着くために、部材と部材の接合部分を正確にけがくことが必要です。接合部分をけがき、その接合部分に打つネジの位置を決めます。部材の組み立てに入ると、正確な作品を効率的に完成させるために、組み立てる手順を考える必要があります。

ここで学生のみなさんには、最良の手順を考えて作品を完成させることを期待します。道具や工具などの使い方を知ることと同様に、手順や方法を知ることで制作の対象範囲が広がっていくと思います。作品の構造を理解し、組み立てる手順をよく考えていくことが学びとして重要です。

２年生のミニスツールの制作が終わると、いよいよ学生が、自分で作りたいものを設計することになります。自分の思い描く素敵な部屋を想定して、そこで使う家具や小物を設計し制作します。最初から自分でオリジナルなものを考えていく学生もいますが、それが難しければ、インターネットなどを利用して、参考になる作品を見ながら、作るものを考えます。何を、どの木材で、どのような形や大きさで作るのかということを考えます。

飾り棚、コート掛け、ミニテーブル、スツールなど様々なものが制作されます。設計するときに、作るものの形や構造を決めますが、そのときに難しいことの一つが、サイズを決めることです。サイズも、「棚の高さや横幅、奥行き」「テーブルの天板の縦と横の長さ」「スツールの脚の長さ」など様々なものが挙げられます。もののサイズによって使いやすさや見た目の感じが変わってきますし、使う目的に合った適切なサイズを決めることが大切です。また、機能的なことだけでなく、デザイン性にもサイズは大きく関わってきます。例えば、板の縦と横の長さのバランスやスツールの座面の大きさと脚の長さのバランスなど、サイズ自体がデザイン性を決めてしまうことがあります。

設計をしている学生の様子を見ると、迷わず形を決めて図面を描いていたり、ある部分の構造を繰り返し考えたりと進み具合はまちまちですが、それぞれの学生にとっての「作りたいもの」は、ある程度、明確に決まっているようです。

学生一人一人の個性を発揮し、居心地の良い快適な部屋をつくる構成要素としての素敵なインテリアエレメントが完成することを期待しています。　IDDN

Contents

2-3
特集
科目「インテリアエレメント」から

科目「インテリアエレメント」から

専攻科の専門科目の一つに「インテリアエレメント」があります。1，2年生が合同で行う「インテリアエレメント」では、家具や小物などを制作する木材加工の演習を中心に行っています。今回は「インテリアエレメント」の授業の様子や内容について御紹介いたします。

Welcome to Information Design Department!!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」をお読みいただきありがとうございます。

本校情報デザイン科では、全国から学生を募集しております。寄宿舎があり、道内外に関わらず入舎可能です。土日祝日も開舎しておりますので、遠方からの入舎も安心です。ご興味のある方は是非本校にご連絡ください。詳しくは、本校 web サイトにて情報デザイン科のページを御覧ください。

専攻科情報デザイン科の特徴

- 高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。(いわゆる「準ずる教育」の教育課程です)
- 授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト(注1)で、対費用効果の高い学びができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象(注2)となっており、支援制度等も充実しています。
- DTP や Web に係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。(例えば、Web であれば、HTML5 と CSS3 を使い、セマンテックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトや center タグは使いません！)
- デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」(注3)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- 学生のこれまでの学びの環境や積み重ね(「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等)に合わせた教育方法を準備します。
- 筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- 修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い(注4)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって)やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に進路選択できるようにしていきます。

注1：現在、学校で材料費等は徴収していません。授業毎に使用する材料等は、すべて学生自身で準備し、学校に持参していただきます。　注2：特別支援学校に在籍する生徒・学生への補助制度で、帰省や通学にかかる交通費、給食費等が対象となり、所得状況に応じて額は変わります。　注3：普通校には通常ない領域で、障がいそのものの改善に焦点を当てます。具体的には、弊校の場合、聞こえや社会生活、コミュニケーションに係わる内容となり、学校の教育活動全般をとおして行われます。　注4：医療や教育分野では聴力を基準に考えることが多いですが、聴覚障がい者の実際の社会での有り様においては、日本手話を母語とする「ろう者」と聴こえづらいけれども日本語を母語とする「難聴者・中途失聴者」で分かれます。

ファックス：0134-62-2663
電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp
電　　話：0134-62-2624

※入試前まで教育相談等に対応できます。
一人一人に合った指導方法を準備するために、できるだけ入試前に教育相談にお越しになることをおすすめいたします。

情報デザイン科**学科だより**
Information Design Department
IDD**Newsletter**
November 2023 11

IDD**Newsletter**　November 2023

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム
発行／北海道高等聾学校
〒041-0261　北海道小樽市銭函1丁目5-1
www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。